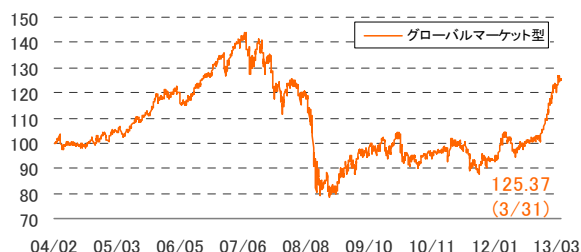


特別勘定クォータリーレポート

スイス年金

新変額個人年金保険(無配当)

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

参考 主な投資対象の投資信託の運用状況(出所:アバディーン投信投資顧問株式会社)

世界バランス・ファンド(適格機関投資家専用)

■基準価額の騰落率

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年
世界バランス・ファンド	3.32%	13.19%	25.32%	23.48%	28.11%

■資産別構成比

	ファンド	複合指数 (参考データ)	ベット
株 式	50.04%	50.00%	0.04%
北米地域	28.64%	29.16%	-0.52%
欧州(除く英国)	8.52%	8.86%	-0.34%
英国	4.77%	4.56%	0.21%
日本	4.53%	4.43%	0.10%
香港・シンガポール	1.75%	1.04%	0.71%
豪州・ニュージーランド	1.83%	1.95%	-0.12%
債 券	49.46%	50.00%	-0.54%
米ドル圏	17.26%	17.25%	0.01%
欧州(除く英国)	15.26%	15.74%	-0.48%
英国	2.65%	2.65%	0.00%
日本	14.29%	14.37%	-0.08%
現 預 金	0.50%	0.00%	0.50%
合 計	100.00%	100.00%	0.00%

■通貨別構成比

	ファンド	複合指数 (参考データ)
米ドル圏	48.54%	46.87%
ユーロ圏	22.21%	22.56%
イギリスポンド	7.75%	7.20%
豪ドル(含NZD)	0.78%	2.53%
スイス・フラン	2.42%	2.04%
日本円	18.30%	18.80%
合計	100.0%	100.0%

* 複合指数はMSCI Worldインデックスの50%、シティグループ世界国債インデックスの50%を加重平均した指数

特別勘定の名称

グローバルマーケット型

主な運用対象
の投資信託世界バランス・ファンド
(適格機関投資家専用)投資信託の
運用会社

アバディーン投信投資顧問株式会社

ユニット・プライスの騰落率

1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
3.10%	12.60%	24.19%	21.66%	23.27%	25.37%

特別勘定資産内訳

構成比(%)				
現 預 金	・	そ の 他		3.4%
投 資 信 託				96.6%
合 計				100.0%

■上位10銘柄

(総組入れ銘柄数 167)

株式	国名	業種	投資比率
ROCHE HOLDING AG-GENUSSS	スイス	ヘルスケア	3.01%
JOHNSON & JOHNSON	アメリカ	ヘルスケア	2.77%
NOVARTIS AG-REG SHS	スイス	ヘルスケア	2.69%
PHILIP MORRIS INTERNATIONAL	アメリカ	生活必需品	2.65%
VODAFONE GROUP PLC	イギリス	電気通信サービス	2.45%
ZURICH INSURANCE GROUP AG	スイス	金融	2.39%
BRITISH AMERICAN TOBACCO PLC	イギリス	生活必需品	2.33%
ROYAL DUTCH SHELL PLC-B SHS	イギリス	エネルギー	2.31%
CVS CAREMARK CORP	アメリカ	生活必需品	2.09%
STANDARD CHARTERED PLC	イギリス	金融	1.90%
合計			24.59%

債券	クーポン	償還日	投資比率
アメリカ国債	2.250	2017/11/30	1.76%
アメリカ国債	2.000	2023/02/15	1.37%
スペイン国債	4.250	2016/10/31	0.99%
アメリカ国債	4.500	2015/11/15	0.68%
スウェーデン国債	3.500	2022/06/01	0.66%
第260回利付国債(10年)	1.600	2014/06/20	0.64%
アメリカ国債	2.750	2042/11/15	0.63%
アメリカ国債	0.375	2016/03/15	0.57%
ドイツ国債	4.000	2018/01/04	0.56%
フランス国債	3.500	2015/04/25	0.52%
合計			8.36%

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、3/3ページの「ご注意いただきたい事項」等を必ずご参照ください。

■運用コメント

市場概況

・日本株式

- (1月) 安倍新政権に対する期待感から円安が更に進んだことや、グローバル株式市場の好調さを背景に、大きく上昇しました。
- (2月) 日銀次期総裁人事を巡る金融緩和強化への期待を背景とした円安や、円安を受けた企業業績の上方修正、米国経済指標の改善などから続伸しました。
- (3月) 政府のTPP交渉参加表明や一部企業での賃上げなど、企業、家計ともに景況感の改善が進んだことなどから、株価はリーマンショック後の高値を連日で更新しました。

・日本債券

- (1月) 追加金融緩和期待が再び高まり、長期金利は低下(債券価格は上昇)しました。
- (2月) 日銀の追加金融緩和期待により、先月に続き長期金利は低下(債券価格は上昇)しました。
- (3月) 黒田日銀総裁の発言などから金融緩和強化の期待が高まり、長期金利は低下基調を強め、2003年につけた過去最低水準を意識する展開となりました。

・外国株式

- (1月) 米国の「財政の崖」問題がひとまず回避され、欧州ではドイツIfx企業景況感指数の回復傾向などから世界的に上昇しました。
- (2月) ユーロ圏の2012年10-12月期GDP成長率速報値が前期比-0.6%と3四半期連続のマイナスで予想以上の落ち込みが示されましたが、欧州市場への影響は小さく日本と米国では堅調でした。
- (3月) 米国2012年10-12月期の実質GDP成長率確定値が前期比年率0.4%増と、改定値(同0.1%増)から上方修正されるなど、米国および日本では堅調となりました。

・外国債券

- (1月) 好調な株式市場を受けて、日本を除き欧米主要国の10年国債利回りは大きく上昇しました。
- (2月) イタリア総選挙の結果から政局不安や財政悪化への懸念が生じ、日本および欧米主要国の10年国債利回りは低下しました。
- (3月) キプロスに対する金融支援に伴う混乱から欧州金融システムへの懸念が生じ、リスク回避の動きから日米欧主要国の10年国債利回りは低下しました。

・為替

- (1月) 2011年12月実施の3年物資金供給オペ(LTRO)で当月末に市場予想を超える繰上返済がされるなどユーロが信託を高め、対米ドルで3%および対円では9%近い大幅高となりました。
- (2月) 金融緩和に積極的な次期日銀総裁の起用が濃厚となったことを受けて、米ドルは対円で強まり、ユーロに対しても大きく上昇しました。
- (3月) 日本銀行の黒田東彦新総裁が推進する大胆な金融緩和方針への期待から円安が継続し、米ドルは対ユーロでも大きく上昇しました。

運用概況

- ・今四半期(2013年1月～3月)のファンドのパフォーマンスは基準価額ベースで+13.19%となりました。月別に見ると1月が+7.23%、2月が+2.17%、3月が+3.32%となります。株式、債券、通貨共にトリプル高の市況となり、基準価額は大きく上昇しました。
- ・今四半期のパフォーマンスは、ベンチマークを上回りました。その主なプラス要因となった株式部門では、銘柄選択効果においてユーロ圏、英国、およびオーストラリアで市場の上昇を大きく上回りました。資産および地域配分効果において、先進国に比べて相対的に軟調だった新興国市場への投資はマイナスでした。債券および為替部門は、ベンチマークを意識した運用を行い寄与は限定的でした。
- ・今四半期の資産配分については、株式、債券ともに中立を意識した配分を継続しました。ただし、株式の地域配分については、相対的に景気が堅調な北米地域をオーバーウェイトする一方、構成国の財政不安が沈静化しつつも解決には至らない欧州(除く英国)を引き続きアンダーウェイトしました。債券に関しては、現預金分だけ日本をアンダーウェイトとした以外は特に大きなウェイト付けは行いませんでした。通貨に関しては、市場では円が全主要通貨に対して引き続き下落し、イタリアやキプロスへの懸念からユーロは対米ドルで反落に転じましたが、豪ドルをアンダーウェイトする他は全般に中立を維持しました。

運用方針

- ・米国株式市場が史上最高値を更新するなど、各国の株式市場が大きく上昇しています。金融緩和の継続や企業業績の大幅な改善をすでに織り込んだ水準にあると見ており、株式をややアンダーウェイト、債券をややオーバーウェイトへ変更する予定です。
- ・株式では、これまでの欧州(除く英国)のアンダーウェイトに加え英国もアンダーウェイトとする予定ですが、北米地域や日本の中立、香港・シンガポールなどアジア株式のオーバーウェイトに変更ありません。
- ・債券については、英国を新たにオーバーウェイトする予定で、その他の地域については中立を継続しつつ、日本については引き続き現預金相当分をアンダーウェイトする方針です。
- ・為替に関しては全般に中立を継続し、過大評価と見られる豪ドルをアンダーウェイトする一方で米ドルをオーバーウェイトし、ユーロや日本円など他通貨については全般にウェイト付けは行わない予定です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、3/3ページの「ご注意いただきたい事項」等を必ずご参照ください。

当資料はアクサ生命が新変額個人年金保険「スイス年金」の特別勘定について 運用状況などを報告する資料です

ご注意いただきたい事項

▲ 投資リスクについて

この保険の据置（運用）期間中の運用は特別勘定で行なわれます。特別勘定資産の運用実績に基づいて年金額、死亡給付金額および解約払戻金額等が変動（増減）します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる年金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

▲ 元本欠損が生じる場合があります

解約の時期、被保険者の契約年齢等の諸条件により、ご契約者等が受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。
保険会社の業務または財産の状況の変化により、年金額、死亡給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

▲ 諸費用について

契約初期費	一時払保険料に対して 5.0% を特別勘定繰入前に控除します。
保険関係費	特別勘定の資産総額に対して (年率0.75%+運用実績に応じた費用(※)) /365日を毎日控除します。 ※ 運用実績に応じた費用：運用実績を毎日判定し、実績が 年率1.5%を超過 した場合のみ、 超過分1%あたり0.1%(上限1.25%) を控除します。
年金管理費	年金支払開始日以後、支払年金額の 1% を年金支払日に控除します。
資産運用関係費	グローバルマーケット型 年率0.714%程度

資産運用関係費は将来変更されることがあります。

その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

その他ご注意いただきたい事項

- 当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
- 新変額個人年金保険「スイス年金」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。
- 新変額個人年金には複数の特別勘定グループが設定されており、「スイス年金」には「特別勘定グループ(TS型)」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ(TS型)」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ(TS型)」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。
- 特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。
- 特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほかに、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。
- ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

新変額個人年金保険（無配当）「スイス年金」は現在販売しておりません。

【募集代理店】

株式会社東京スター銀行



東京スター銀行

0120-330-655

(平日 9:00~21:00 土日祝 9:00~17:00 年末・年始を除く)

ホームページ <http://www.tokyostarbank.co.jp>

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

TEL 0120-933-399

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>